



2007年2月10日、ついに熊野古道センターがグランドオープン！開館に先立って、地元尾鷲市の子供たちとイギリス出身の英語の先生(ALT)がセンターに遊びに来てくれました。ニュースレター創刊号は、好奇心旺盛・元気いっぱいの尾鷲っ子&当センター長 花尻薫による対談特集からスタートです！

6000本の尾鷲ひのき

子:「この家でっか〜い！」

花:「大きいやろお。ひのきって木知っとるか？」

子:「知っとる！」

花:「ひのきは、昔、熊とか猪を食べてった縄文人がいた頃から生えとったんや。この尾鷲や紀北の山で大切に育てられた、6000本のひのきでできとるんやぞ。」

子:「え〜！6000本〜!？」



子供たち：「熊野古道センターってなに？」

花:「熊野古道って何か知っている子おるかな？」

子:「は〜い。」!(全員が手をあげました。)

子:「でも、熊野古道って何するとこ？」

花:「チョンマゲの時代、江戸時代に、君らのご先祖様が、大変な苦勞をして、山の中に道をつくったんや。雨で流されたら悪いから、綺麗に石を敷いてな、たくさんの人々が、熊野三山を目指して歩いた道で、平成16年に世界遺産に登録されたんや。そのうち、三重県の部分を「伊勢路」

っていうんやけど、熊野古道センターは、その「伊勢路」を歩きに来てくださる方に、熊野のことをよく知ってもらい、「ほんものの熊野古道」を体験していただくためのお手伝いをするところなんや。」



子供たち：「ここで何ができるの？」

花:「そうやなあ、みんな、オオカミって知っとるか？オオカミに追いかけられたらどないするかな。」

子:「お尻嘯まれる！」

花:「(笑)江戸時代の人、すぐそこの八鬼山で、オオカミに追いかけられたんや。オオカミは今もおおと思うかな？」

子:「うん。」

花:「オオカミは今もういないんや…。センターでは、オオカミの写真も見られるし、紀州犬やウミガメのことも良く分かるから、まあ見にこいや。」

子:「ひのきのこともわかる？」

花:「わかるよ。ひのきを削ったシートを使ってなんでも作れるし、食べられる草や、鳥のこともわかる。熊野のチョンマゲの人たちはどういふ風に暮らしてたんかな。よそのチョンマゲの人たちは何を思って遠い熊野へはるばるやって来たんかな。そういうことが、ここへ来たたらわかるよ。」

人と道、そして人と人

対談のあと、子供たちは当センターの鳥おじさんとセンターの庭からバードウォッチングを楽しみました。その笑顔は、「自然・歴史・文化」だけではない、世代と国籍を超えた“交流”を楽しんでいるようでした。

故郷を誇りとし、地域内外の人と人が、道で交わり、つながる。私たちはその中継地点になりたいと願い、努力していきます。開館後、皆様にお会いできるのを楽しみにしております！



開館記念イベント

2007年2月10日(土) 午前9時、熊野古道センター開館披露！

開

開館を記念して2月10(土)にオープニング記念イベントを開催いたします。東紀州に伝わる伝統的な祭りが集まる催しや、音楽会、そして東紀州の海の幸、山の幸を集めた物産展など、多くの催し物でおもてなしします。皆様ぜひお越しください！

2月11日・12日も、盛りだくさんの催し物を計画中です。乞うご期待!!

音 音楽会は、洗足学園音楽大学の現代邦楽コースの皆さんによる、邦楽演奏です。琴や三味線などの和楽器が奏でる現代邦楽の素晴らしさを、ぜひ堪能してください。

夕 暮れからは、センターをライトアップします。アッパーライトとあんどんによって照らし出される夜の熊野古道センターはとても綺麗で、ひのき作りの香りと光に酔い

※尚、2/9(金)には関係者を招いた開館記念式典及び内覧会を開催します。



開館後のイベント情報

体験学習

センターの周りは野鳥の宝庫！

2月・3月の土日は、バードウォッチングを開催します。冬の間は、野鳥に会える絶好のシーズン！ちょっと森におじゃまして、鳥たちに会いに行きましょう。雨でもやりますヨ。



*参加料:500円 時間:am9:30~am12:00

2/18(日)料理教室 I

東紀州でおなじみの魚・ブリを使って楽しく料理を学びます。講師は相可高校の村林新吾先生！
*参加料:時価(約2,000円) 時間:am11:00~pm2:00

2/21(水)障害者の為のフラワーデザイン教室

あなたもお花のデザイナーに！
テーマはお雛さま！
*参加料:1,000円 時間:pm1:30~pm2:30

2/24(土)折り紙教室

ニッポンの誇るべき伝統、折り紙はすごい！こんな立派な雛人形も自分の手で！
*参加料:1,000円
時間:pm1:00~pm3:00



2/25(日)アラカシの植樹

アラカシってどんな木？どうやって育つの？
センターの庭に自分の手で植えながら楽しく学ぼう！
*参加料:300円 時間:am10:00~am12:00

3/ 4(日)ひのきアート教室(コサージュ)

何でも作れる魔法の素材、ひのきシートで胸元を素敵に飾りましょう☆
写真は亀です！
*参加料:1,000円
時間:pm1:00~pm2:30



3/25(日)食べられる山野草教室

熊野の野山には食べられる植物がいっぱい！
めでて楽しみ、食べて楽しむ山野草講座開設！
*参加料:1,000円 時間:am10:00~pm2:00

体験学習へのお申込は、1週間前迄にお願いします。
また、電話でのみ受付いたします。0597-25-2666

講座講演

2/24(土)「熊野古道センターと東紀州の未来」(仮題)講演会

海の博物館館長 石原義剛氏に、センターのめざす東紀州地域への貢献や未来について語って頂きます。
*参加料無料 時間:pm1:30~、申込不要

3/ 1(木)「熊野古道から学ぶ」講演会

熊野古道を通して、現代に生きる私たちの暮らしや、生きるヒントを探ります。講師:渡辺芳遠氏
*参加料無料 時間:pm6:00~、申込不要

3/16(金)「那智参詣曼荼羅絵解き」

曼荼羅を携えて、日本中に熊野信仰を伝えた熊野比丘尼に扮して絵解きをし、神秘の世界へ招き入れます。
*参加料無料、申込不要
時間:第1回pm3:00~、
第2回pm6:30~



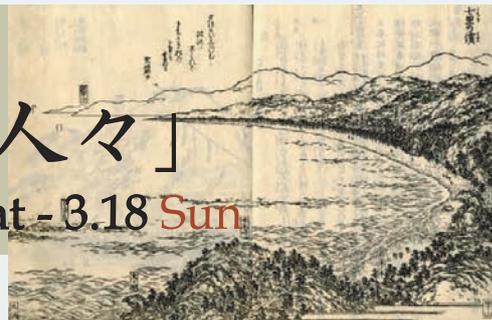
3/10(土)~11(日)「木の建築フォーラム/尾鷲」

NPO木の建築フォーラムと共催で、「地域材を活かした家作り」について語り合うフォーラムを開催します。パネルディスカッション・現地でのエクスカージョン等。
*詳細・申込は木の建築フォーラム/尾鷲実行委員会へ
0596-52-6400 注:1月中旬以降の受付となります。)

三重県立熊野古道センター開館記念特別展
三重県立博物館移動展示

「絵図にみる巡礼道中の人々」

2007.2.10 Sat - 3.18 Sun



古来から生活と信仰の道として発展してきた熊野古道は、熊野信仰の広がりや交通網の整備、旅文化の流行などにより、時代とともに多くの人々が通行し、現在へと受け継がれてきました。

そこで、三重県立熊野古道センターが開館するにあたり、熊野古道及びその周辺にある自然・歴史・文化の魅力を多くの方々に伝える、その第一歩として、このたび企画展示「絵図にみる巡礼道中の人々」を、三重県立博物館との共催により、開催いたします。

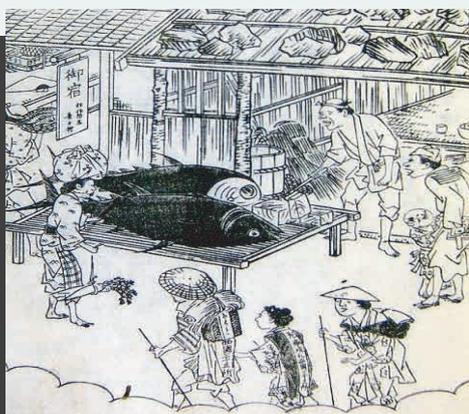
「西国三十三所名所図会」や歌川広重の「東海道五十三次」などを通じて、街道沿いに行き交う人々やその道中がどのように描かれてきたのか、目で見て楽しみながら、昔の旅人達を少しでも近くに感じて頂ければ幸いです。

* 三重県立博物館移動展示は、3/18迄となっております。
また、3/19・20日は展示替えのためお休みいたしますので、ご注意ください。

～春休み特別展示～

ひきつづき、3/21(祝)～4/8(日)は、春休み企画として上記企画展リニューアルし、子供たちにも熊野古道や昔の旅について、絵で見て楽しく学んでもらえるような展示を行います。私達のご先祖様が大変な思いをして守り続けてきた熊野古道とは何なのか、そして人々は何のためにはるばる遠い国から熊野へ旅をしたのか？

親子で、お友達同士でいにしえの世界を覗きにきてください。



←「さあさあ、よってらっしゃい見てらっしゃい、今からマグロの解体ショーが始まるよ～」



熊野語り部友の会
副会長 吉田金好さん

無事ガイドを務めた安堵感でほっとしていたところ、二人の女性が近づいてみえました。

みなさん、はじめまして。私は熊野の雄大な自然の中で生まれ育ち、営林署の木材生産の現場担当として、日々熊野の森とともに暮らしてまいりました。「熊野古道語り部友の会」に仲間入りして、じきに十年。これまで、様々な出会いがありました。

二〇〇四年の冬、東京からの中高年の男女三十人余を、八鬼山(やきやま)にご案内しました。八鬼山は標高六二七メートル、世界遺産登録距離七・五キロの難所です。峻険、多雨に山賊・狼の出没・・・古来旅人を震わせた悪条件の峠道です。

絶景に後ろ髪を引かれながら、陽のあるうちにと急ぎ、日暮れに三木里に辿り着いた時には、もうこれ以上は歩けないという人がほとんどでした。約十キロを五時間かけての踏破でした。



<八鬼山越えコース>
(尾鷲向井バス停～JR三木里駅)
かつての巡礼者たちにとって、西国で第一番目にてあ難所だった、峻険な山道。山賊や狼も出没して旅人を苦しめた。石畳道のかたわらには、町石をかねた地蔵や巡礼墓碑がたたずむ。

この話を車内でお話すると、万歳三唱が起り、その後バスは名古屋への帰路に急ぎました。

他の峠道では、高齢者の方を案内したことがありますが、八鬼山越えをした80代の方は、私が知る限り初めてですし、少ないでしょう。男性よりも女性の方が年とともに強くなるのかもしれない。

このような出会いに元気を頂き、今日も熊野古道を登り続けます。



1 通目

「ガイドさん、実は私たち二人は、82歳と85歳です。昨夜は高齢で登れるかと思案し、一睡もできなかったんです。でも、この晴天、絶景。大変でしたが歩いて本当にすっきりした気持ちです。最初で最後の山登りです。後は、人生の往生峠を登るだけです。」



初冬の風物詩 熊野古道沿いのサンマ

春、熊野のサンマは冬の味覚

木枯らしが吹き始めるとサンマの季節で、熊野古道沿いでは名物サンマ寿司とサンマの丸干し作りが始まります。北海道から南下するサンマは熊野灘周辺に到達する頃には、すっかり油がぬけて特有の味になります。

サンマ漁の基地では早朝から威勢のよい掛け声とともに水揚げが始まります。サンマの丸干しは、ほどよい塩分と北風にさらされ紀州の名物として食膳を飾ります。

式、生粋の日本魚・サンマ

サンマは日本の特産魚で、欧米にも韓国にも中国でもいないのです。サンマ漁は約300年前に紀州で始まり、やがて房州(千葉県)に伝わりました。文献に名前が出るのは、江戸時代の中頃の元禄年間(1688年～1704年)です。最初の頃は脂をとって、ともし火の灯油として販売されたようで、漁獲方法は、湾内に入り込んだサンマの魚群を八つ手網で獲ったようです。食膳にのるのは安永元年(1772年)頃で、安くて長い魚として売り出されていたようです。

サンマは庶民の魚でしたから、江戸時代には地位の高い人は食べなかったといえます。



こちらは、熊野古道センター展示棟常設展示室の展示写真で、サンマ寿司作りのモデルになってくださった御浜町の榎本春美さんです。ありがとうございました！

参、サンマは外国語!?

サンマの語源はサンマの学名「コロラビス・サイラ」の「サイラ」によると言われています。学名のサイラは、和歌山県田辺、古座川周辺・三重県鳥羽・志摩周辺で使用されていますが、地方名がいろいろあります。

「サエラ」和歌山県串本町・那智勝浦町・田辺市

「サイロ」三重県尾鷲市・北牟婁郡周辺

「サイレ」三重県熊野市・南牟婁郡周辺

和歌山県北山村・本宮町・奈良県十津川村

四、左芸末=秋刀魚=サンマ

「サンマ」の漢字は「紀伊続風土記」にある「左芸末」が唯一の記録で、漢字の「秋刀魚」と書くのは刀に似た姿であろうが、当て字で、サンマという漢字はないそうです。江戸時代の後期、熊野詣が盛んであった享和元年(1801年)から、文政8年(1825年)にかけて、紀州のサンマは巡礼や旅人によって、全国にその名が知られるようになったと考えられています。



熊野市の砂礫海岸、七里御浜でのサンマのすだれ干しの様子です。これも、東紀州の季節のたよりですね。

熊野古道センターへのアクセス



熊野古道センターニュースレター
“熊野古道センターからのてがみVol.1”

●発行日

2006年12月25日

●企画・編集・発行

三重県立熊野古道センター

(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)

●発行所

〒519-3625

三重県尾鷲市大字向井字村島12番4

●地域の「ここが面白い！」などの口コミ情報を募集しています！お気軽にお問い合わせください。

●三重県立熊野古道センター

メール: info@kumanokodocenter.com

HP: <http://www.kumanokodocenter.com>